

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」松本校 (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 18日		~ 2024年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2024年 12月 2日		~ 2024年 12月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○個別にオーダーメイドの支援プログラムを複製。 ○遊びを通して、発達段階に沿って、丁寧な支援が期待できる。	○工作など、良いものは共有しつつ、新しいオリジナル教材を準備している。	○他のきらりの事業所で使用している教材・アイデアを共有して活用する。
2	○安心して通所できる場所になっている	○挨拶など、児童や保護者に積極的に声をかけている	○防災訓練や必要事項を伝えていく。 ○保護者や児童からの伝達・情報共有をきちんと行って信頼に繋げる。
3	○色々な視点からの支援が提供できる	○職員間で情報共有して、各指導員の強みを活かしている。	○内部研修やお助け隊を活用して、共有する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○就学や就労へのサポート。	○こども園や小中学校との連携	○就学に向けて、職員からの助言や通所されているお子様の保護者様からの意見を参考に聴く機会を設ける。 ○将来的に他の就労事業所との連携をはかる。
2	○地域との連携	○個別の通所施設という業態なので、事業所として地域との連携が難しい。	○利用児童や保護者様へ個々に発信することで、地域のイベントや取組への参加を促す。 ○地域の自立支援協議会・部会に参加する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」松本校					公表日	2025年 2月 15日				
					利用児童数	16		回収数	13		
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応				
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3	7	3	0	・ちょうど良い広さなのかと思います。 ・他人がいてもいいと思える自分の境界線を引きやすくなるので、コンビ二ぐらいの広さがあると嬉しいです。	おかげ様でたくさんのお子様の皆さまにご利用いただき、当初からご利用いただいている児童・保護者様に至っては手狭に感じることと思います。お子様が快適に過ごせるようなレイアウトを心掛けております。			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12	1	0	0					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	6	1	0	・聴覚過敏のある子と奇声をあげる子と、重なる時間だとちょっと辛いと感じるようです。 ・目で見て自分で把握できる空間で良いと思います。	お子様にとって良いことと支障があることが発生すると思います。特に音に関しては、聴覚過敏のお子様には難しい場合もあるので、社会生活に即した許容範囲での提案をさせていただきます。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8	5	0	0					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9	3	1	0					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11	0	0	2					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9	3	0	1					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	3	0	3					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11	2	0	0					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9	3	0	1					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	3	3	4	・交流の機会を体験していないためわかりません。	個別支援が中心の利用形態となっています。集団での活動が希望のお子様には、集団型の児童発達支援事業所の利用を選択肢の1つとしてご提案しています。			
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13	0	0	0					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12	0	0	1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2	3	5	3	・勉強会に、まだ不参加なのでどちらともいえないです。	事業所内での家族支援プログラムに是非ご参加ください。病院等で開催している研修情報なども提供させていただきます。			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	7	3	1	2					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6	6	0	1					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10	2	0	1					
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	3	7	3						

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	5	0	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	3	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	3	5	0	5	・私（保護者様）が確認できておらずわかりません。すみません。	一度、松本校のブログを覗いてみていただくと参考になります。これまでの活動内容などもご覧いただけます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	2	0	2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	3	0	2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	3	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	1	0	3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	11	2	0	0	・今日はどの先生かな？と毎回楽しみに通わせていただいています。（複数回答）	ありがとうございます。お子様が継続的に楽しく通っていただけるよう、職員一同工夫しております。
	29	事業所の支援に満足していますか。	9	3	1	0	・支援グッズが色々工夫されていてありがたく思います。	ご利用いただきありがとうございます。お子様が飽きないよう、手作り支援グッズを制作していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」松本校				公表日		2025年 2月 15日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		5	1	法令を遵守したスペースを確保しています。	レイアウトを工夫して、保護者様の待機スペースを確保できるよう努めます。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。		6	0	法令が必要とされる配置をしています。	適正な職員配置を心掛けます。			
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		3	3	パーテーションで空間を分けたり、特性に応じて視覚への刺激を少なくするような環境作りに努めています。	こどもにわかりやすい構造化が課題です。			
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		6	0	子ども達が集中できるようシンプルな内装にしています。	待機スペースと活動スペースが混同しないような配慮が必要です。			
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		4	2	限られたスペースですが、パーテーションの工夫やアレンジすることで、こどもの個別のスペースを確保しています。	利用人数・個別スペースの確保が課題です。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		5	1	個人面談を通じ、振り返りと目標設定をしています。	職員全員が積極的に業務改善に取り組んでいます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6	0	いただいたご意見は、真摯に受け止め、業務改善に繋げています。	毎年の保護者様の評価が参考になります。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6	0	日常的に、職員とのコミュニケーションを大切にしています。	発信された意見は、職員間で話し合い業務改善に繋げています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	2	現在、第三者評価を取り入れていません。	保護者・社内の2者評価を中心に行っています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		6	0	1か月程度の初任者研修、本部主催の法定研修や階層化研修、発達支援研究所のテーマ研修や事例検討会を実施しています。	研修受講と報告書の提出徹底が課題です。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		4	2	今年度、策定し、公表予定です。	ねらい、内容の共有化が課題です。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。		6	0	こどもと保護者様の意見や考えを反映した個別支援計画づくりに努めています。	相談支援員との連携が課題です。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		6	0	外部で行われる支援者会議での情報もあわせ、事業所内の支援者会議で共通理解の下でこどもの成長のサポート方法を検討しています。	こどもの最善の利益を考慮することが目標です。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		6	0	個別支援計画に沿った支援プログラムの作成と計画に沿った支援が基本です。	児発管と指導員との共有を心掛けています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		4	2	日々、保護者さまからの話を傾けて情報を共有しています。	日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメント書式の利用が課題です。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		6	0	児童発達支援ガイドラインに沿って、計画を作成しています。その上で、本人支援に関する目標設定を大切にしています。	ガイドラインに従います。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		5	1	お子様の事例を共有し擦り合わせを行っています。	皆で意見を出し合う時間を確保することが課題です。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	お子様一人ひとりに合わせたプログラムを毎回提案しています。	活動プログラムに柔軟な発想を取り入れることが目標です。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	個別活動を中心に、集団活動も計画・ご案内しております。	支援に関しては、色々な工夫をしています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	朝礼と夕礼にて職員間での情報共有を行っています。	限られた時間の中で、きちんと引き継ぐことが課題です。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	朝礼や夕礼、面談・体験後に必ず振り返りを行っています。	職員の気づきが増え、成長することが課題。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	毎回指導記録をとり見直しています。アプリを活用し共有化しています。	日々の支援の記録を大切にしています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	日々のお子様の様子や保護者様の情報を大切にしています。	定期的な見直しは課題です。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	児童発達支援管理責任者や指導員のだれが参加してもわかるように情報共有を心がけています。	日々の支援や業務との日程調整が課題です。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	関係機関との連携を大切にしています。	多くの関係機関と連携することが課題です。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	支援者会議や訪問を通して、可能な限り、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解に努めています。	支援内容と情報共有が課題です。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3	必要に応じて、相談支援員を通して、支援者会議を開催し、情報共有を行っています。	就学の移行の際に、保護者様が安心いただける提案ができるよう心がけています。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	4	外部専門家による研修や教材、プログラムの監修・策定を行っています。	地域の児童発達支援センターとの連携を深めることが課題です。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	4	支援の時間や場所が限られているため、今のところ活動機会は設けていません。	交流の機会や選択肢が増えるといいと思います。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	保護者とのフィードバックの時間を確保しています。	保護者様への伝え方を工夫することで、信頼関係向上に努めます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	必要に応じて、家族相談や保護者交流会、主にはフィードバック時にアドバイスをしています。	継続的な情報提供が課題です。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	保護者様がわかりやすい表現や説明を心がけています。	保護者様の理解を深めることが課題です。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	1	保護者様へのフィードバックや家族相談、児童への支援中のききとりなど、双方から考えや気持ちを適宜確認しています。	これからもこどもや家族の意向を確認する機会を大切にしていきます。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	具体的な支援の内容については、個別支援計画を提示しながら説明しています。	わかりやすい説明を心掛けています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	支援後のフィードバック時に必要な助言を行っています。ご希望者に月1回の家族相談の機会を設けています。	経験年数に関係なく、全員が相談の対応ができるようになることが目標です。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	5	感染症流行に伴い、人が一か所に集まる活動を控えています。対策をきちんと整え交流会を開催することを目指しています。	一定のスペースに多くのお子様を受け入れる工夫をすることが課題のひとつです。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	事業所に苦情受付および解決責任者を定め、相談や申し入れがあった場合に適切に対応しています。また、家族相談に関しても迅速に受入れ体制をとっています。	事前にご相談頂いているので、無理なく対応できています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	教室内に活動内容やイベントのご案内を掲示しています。また、定期的にLINEやブログを活用して発信しています。	双方の連絡をLINEやメール、電話等でやりとりしています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	個人情報が記載された書類は鍵付きキャビネットに保管しています。	文書だけでなく、会話での情報のやりとりにも配慮しています。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	ICT機器や視覚的ツールなどを活用しています。	使用の可否についても、保護者様の同意を得ています。
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	地域児童や保護者様に配慮しながら、可能な限り地域に開かれた運営を心がけています。	地域との交流が課題です。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	必要なマニュアルは策定し、職員への周知を徹底しています。	より現実的で効果的な訓練の実施が課題です。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	月1回の避難訓練を定期的実施することで、緊急時の対応を想定しています。	より現実的で効果的な訓練の実施が課題です。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	面談等で、事前にお子様の状況をききとり確認しております。	子どもの状況が変化するので定期的な状況確認が課題です。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	食事の提供はしていませんが、把握しています。	食事提供はしていませんが、把握するように努めています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	支援活動を安全に行うことを第一目標に研修や訓練を実施しています。	全職員が安全に支援を行うことが目標です。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2	家族等への周知はまだ不十分であるため、適切に連携がはかれるよう検討していきます。	ご家族にご協力いただけるよう、有事の対応方法を確認しています。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	ヒヤリハット報告書の作成と共有化を行っています。職員全員が危険予測を意識するよう努めます。	指示がなくてもヒヤリハットを作成できるようにすることが目標です。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	法人本部主導の法定研修や定期研修を実施しています。虐待防止委員会を中心に、研修計画や対応策を検討しています。	年1回以上の研修受講を継続しています。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	身体拘束が必要な児童については、事前に虐待防止委員会へ報告したうえで、契約時に保護者様へ丁寧に説明し、身体拘束に係る同意書を依頼しています。	身体拘束における相互理解が課題です。